再発見・牛久第二十二話

牛久市文化財保護審議委員
栗原（くりはら） 功（いさお）

牛久と由良家④

由良家が徳川将軍直属の旗本に列する
―家康が新田家の系図をゆずりうける―

国繁の嫡子貞繁は関ヶ原の戦いで東軍（徳川軍）に

慶長5年（1600年）9月、美濃国（みののくに）の関ヶ原（現岐阜県不破郡関ヶ原町）を主戦場として、徳川家康の東軍十万四千余と石田三成率いる西軍、八万五千余の『天下分け目の戦い』が行われ、激戦の末、三成が敗北した。

家康は、3年後の慶長8年に後陽成（ごようぜい）天皇より征夷大将軍（武家政権における職名で幕府の首長）に任ぜられて江戸に幕府を開いた。

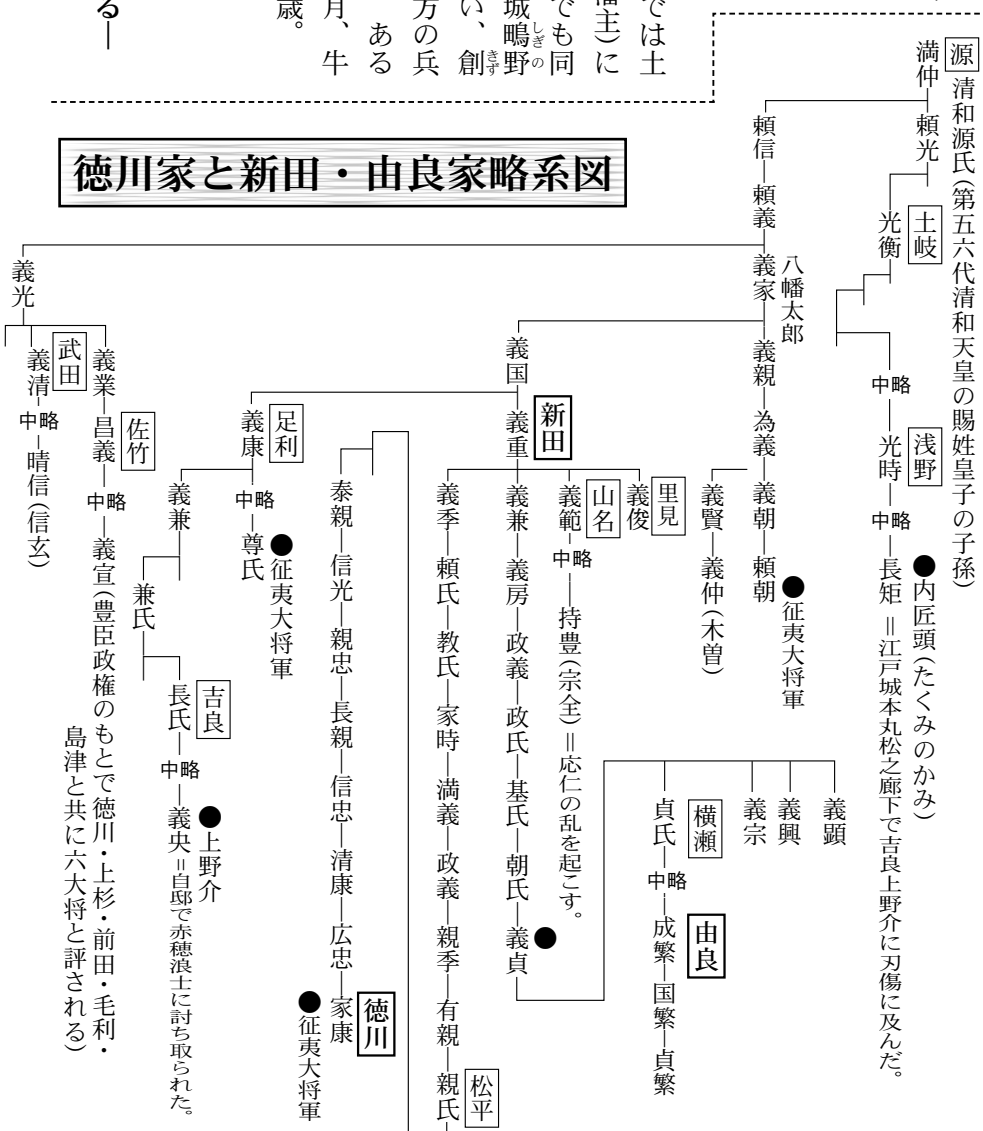
牛久城主の由良国繁は、記録によれば、家康の関ヶ原への出陣の際、供奉（ぐぶ）を申し出たが、家康の『仰（おおせ）』により江戸にとどまるとある。

国繁の嫡子貞繁の略歴を由良家由来書から引用し次に記しておく。

家康が、豊臣秀吉政権の下で、天正18年（1590年）に江戸城に移ってきたとき、貞繁は召し出され、近侍（きんじ）（そば近く仕える）し、以後旗本に列した。慶長7年からは家康側近松平康重（子孫は川越藩主）と水戸城の守衛を務めた。翌年の関ヶ原への出陣に際しては、侍大将格永井直勝（のち笠間・古河藩主）隊に属して戦う。慶長10年9月からは伏見城を守る。同年、由良家を継承して父の遺跡を継ぐ。同19年（1614年）の大坂冬の陣では土井利勝隊（老中、子孫は古河藩主）に属し、翌年元和元年の夏の陣でも同隊に属して、5月7日に大坂城鳴野（しぎの）（現大阪市城東区西部）口で戦い、創（きず）をこうぶる。家臣たちは大坂方の兵を討ち取り、あるいは討死し、あるいは創をこうぶる。同7年3月、牛久城中において没す。享年48歳。

家康がつくった徳川家系図―新田家分流―松平を徳川に改める―

家康は、戦国動乱の真っ直中（まっただなか）の天文11年（1542年）に三河国額田郡（みかわのくにぬかだぐん）の岡崎城（現愛知県岡崎市）内において生まれた。信長より8つ年下、秀吉よりも5つ年下だ。家康の父は三河国賀茂郡松平郷（現豊田市）に土着する小豪族松平宗家（そうけ）の8代目広忠である。

家康が三河一国を平定した直後の24歳のとき、永禄9年（1566年）につくった徳川家の系図は左記の通りだ。それによれば松平家は、新田家系で、上野国（こうずけのくに）（現群馬県）の新田庄の徳（得）川（河）郷（現太田市）に移り住み徳川と名のっていた家だとしている。

徳川家と新田・由良家略系図